

【奨励賞】

「日本人とロシア人と私」

根室市立歯舞小中学校

1年 津嶋 明里

「北方領土を返せ。」

日本人の人々からそんな声が聞こえてくる。一九四五年十二月一日から始まった北方領土返還運動は今までも続いている。

そんな中、日本にはロシア人全体を差別する人も少なくはない。だがロシア人全体を差別することは、北方領土問題の解決につながるのだろうか。私はそうは思わない。

すべてのロシア人が日本の領土をうばってもいいなんて思っているかは分からない。それに、ロシア人だって私達と同じ人間だ。昔に色々あったからといってそれを差別する理由にはいけないと思うからだ。

私達が日々、成長しているようにロシア人の考え方も変化している。

「返還となれば反対する人はいない。」これは、ある島のロシア人の住民の声だ。

「今の生活は最低だ。」「ロシア政府はわれわれを見捨てたんだ。」などの声もある。

だが日本人はロシア人の声は聞かない。聞いている人もいるが、ほとんどの人が聞いていないだろう。ロシア人の意見になど、耳を傾ける気などないままロシア人の気持ちを無視してロシア人を責める。それはおかしくないだろうか。意見を聞かずに勝手に決めつけるのはおかしいのではないか。北方領土を返してほしいという気持ちが切実なのはわかるが、それはロシア人を差別していい理由にはならない。日本人とロシア人はいつかわかりあえる時がくるのだろうか。

私は北方四島交流事業の一環として学校でロシア人との交流をしたことがある。ロシア人が日本語を少し話したり、私達がロシア語を話したり、一緒にゲームしたり、ロシア人と友達になったという人も中にはいるだろう。そのときの光景は日本人とロシア人には壁なんてないと感じさせてくれた。日本人、ロシア人、みんな楽しそうだった。こんなふうに、大人達もわかり合えたらと思う。でも、きっと大人達はわかり合えないのではなく、わかり合おうとしないだけではないのだろうか。互いにわかり合う。口でいえば簡単に聞こえるが実際はすごくむずかしいことだ。でも、もしもそれができるならたとえ時間がかかったとしても、わかり合うことができるのなら私はその手助けがしたい。世界が変わることができるのなら、私はその可能性を信じてみたいと思った。

日本人とロシア人がいつか互いの間の壁を壊して、わかり合う日が来るまで。